

たのきゅう

ひょうじゅん 標準 ③

たのきゅう

(日本の昔話)

昔、たのきゅうという旅の役者がいました。ある日、お母さんが病気だという知らせを受けて、たのきゅうは、急いで山をこえて家に帰ることにしました。

山道を歩いていると、日がくれてきました。すると、一人のおじいさんがあらわれて、たずねました。「おまえは、だれだ。」

「わたしは、たのきゅうです。」

ところが、おじいさんには、「たぬき」と聞こえたようです。おじいさんは言いました。「そうか、たぬきか。わしは、この山にすむうわばみだ。たぬきなら、何かに化けてみせろ。」

たのきゅうは、役者の道具を使って、次々にすがたを変えてみせました。うわばみは、すっかり感心しました。

やがて、うわばみは言いました。「たぬきよ、おまえのきらいなものは何だ。わしは、たばこのやにが大きいものだ。」

たのきゅうは、「わたしは、お金がこわいのです。」と答えました。そして、村に着くと、村の人たちと、うわばみの住む所にたばこのやにをまきました。おこったうわばみは、たのきゅうの家にお金を投げこんで、仕返しをしたつもりになりました。

1

たのきゅうの仕事は、何ですか。

旅の



2

おじいさんには、「たのきゅう」が何と聞こえましたか。

ア たぬき

イ きつね

ウ たいこ

3

うわばみが感心したのは、どうしてですか。

4

たのきゅうが「お金がこわい」と答えたのは、どうしてだと思いますか。